

国立大学法人浜松医科大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

浜松医科大学は、優れた臨床医と独創力に富む研究者の養成、独創的研究及び新しい医療技術の開発の推進、患者第一主義の診療を実践して地域医療の中心的役割を果たすことにより人類の健康と福祉に貢献することを目指している。第2期中期目標期間においては、医学及び看護学の進歩に対応する能動的学習能力、問題探求・問題解決能力、そして、幅広い教養に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、国際性を育み、地域社会に貢献できる医師・看護専門職を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、国際基準の医学教育認証評価の取得に向けた新カリキュラムを構築するため、「新カリキュラム構築ワーキング」を組織し、カリキュラム全体の見直しを行っているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

地域特性を生かした医療技術の開発として、光関連企業と共同で、患者の頭部を固定せずに脳画像を撮影できる「次世代 PET 診断システム」を開発したほか、学長特別補佐として国際認証カリキュラム担当、広報社会貢献担当を配置するとともに、学長付企画推進室を設置し、ガバナンスの強化を図ることとしている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①収支の改善、②資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②法令遵守)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 臨床講義棟の改修に合わせて、学生の自学自習スペースとしてラウンジを整備している。このラウンジを災害時には、災害対策本部として利用できるよう、可動間仕切りにより防災関連機器等を壁面収納とするとともに、照明、コンセントは発電機回路からの電源供給とし、防災センターの防災監視モニターと同じ情報を表示する液晶大型モニターを設置や、通常時は学生のグループ学習等に利用され、災害時には経時活動記録、被害状況、職員参集記録等を貼付可能とするマグネット式のホワイトボードを設置するなど、災害対策本部の機能強化を図っている。

平成25年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 平成24年度評価において評価委員会が課題として指摘した、個人情報の不適切な管理については、大学職員に対して情報漏えいの事例に基づいた情報セキュリティ講習会の実施等を行っているが、大学院生が、学内で定められた個人情報を持ち出す際のルールに従わず、患者の個人情報が記録されたファイルを学外に持ち出した事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントの強化に一層努めることが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるが、個人情報の不適切な管理事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 地域でのプライマリーケアができる医師の育成と確保を目的に、「地域家庭医療学講座」を設置し、自治体、磐田市総合病院、菊川市家庭医療センター及び森町家庭医療

クリニックと連携し、臨床実習体制の環境を整備したほか、磐田市、菊川市、森町で構成される家庭医養成連絡協議会への御前崎市の参加を橋渡しし、菊川市家庭医療センターの診療範囲を御前崎市にも拡大するなど、地域医療に貢献している。

- 国際感覚を持った人材の育成とコミュニケーション能力の向上を目指した「国際サービスラーニング」科目を平成 26 年度から新設し、ニカラグアへ 9 名の学生がボランティア活動に参加することに対する経済的支援を決定するとともに、学生の短期留学支援制度を整備している。
- 「光創起イノベーション研究拠点」事業について、静岡大学、浜松医科大学、光産業創成大学院大学、光関連企業が共同で実施するとともに、4 機関で「浜松を『光の尖端都市』に〜浜松光宣言 2013」を調印、発表し、密接に連携して力を結集し、世界に発信できる光科学の創造、新産業の創出、次世代を担う人材の育成を行う光拠点として整備することとしている。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 救急部において、スタッフが専門的トレーニングコース (JATEC コース、JMECC コース) を受講するだけでなく、JCLS インストラクター、JMECC インストラクターもそれぞれ 2 名養成している。

(診療面)

- 外来化学療法センターで治療ベッドを 4 床増床し 18 床としたことにより、予約状況が改善され化学療法の件数も増加した (対前年度比 5,051 件、161 件増) ほか、薬剤部による抗がん剤調整を開始し、患者への投与開始までの時間が短縮されている。
- 浜松市がん対策推進計画の一環として、北遠地区の病院に対し、オンラインでの放射線診断の診療支援を開始している。(平成 25 年度実績 24 件)

(運営面)

- 近隣開業医への訪問を行い、要望や患者予約対応等について意見を聴取し外来担当医一覧を配付するとともに、開業医等からの紹介窓口の電話回線を増やし、委託職員数を増員することで、開業医等からの紹介予約への対応をより迅速化させ、外来初診患者の事前予約化を一部の診療科を除き実行している。
- 女性医師の就労及び家庭の支援を目的として、女性医師支援センターを病院組織として立ち上げ、早期職場復帰を希望する女性医師に対する職場支援相談員を 2 名配置するなどの支援を行っている。